

## 明けましておめでとうございます

会員の皆さんにはお元気で新しい年をお迎えのことと思います。09年は一票一揆が起こって、政権交代が実現するという記念すべき年になりました。しかし、9条を守り、憲法を活かす運動にとって、残念ながら一服できるような状況にはありません。

5月には国民投票法（改憲手続き法）の施行、沖縄の米軍基地問題の決着、国連では核不拡散条約（NPT）再検討会議の開催等々重要な問題が目白押しです。

今年は寅年。千里を駆ける勢いで頑張りたいものですね。



## 「九条の会」近畿ブロック交流集会開かれる 09年12月13日（日）関西大学

第3回までは東京で開かれていた交流集会が初めて地域別に開かれることになり、約700人が参加しました（兵庫県からは120人）。午前は渡辺治・一橋大学院教授の講演と各府県からの報告、午後は分科会と分散会が並行して行われました。以下は渡辺治教授の講演要旨です。

### 「民主党政権と改憲の行方 九条の会の新しい課題を探る」

総選挙における民主党政権の成立で、私たちの暮らしにも憲法にも大きな変化。

総選挙の結果は何を語っているか、なぜ民主党は大勝したのか 2つの運動と1つの転換

・構造改革政治に対する怒りと運動が自公を追い詰めた。

大企業の儲けを拡大するための構造改革で、地方は疲弊し、社会保障は削減され、貧困、格差が爆発 餓死、自殺、無保険世帯、貯金のない世帯。自民党の金城湯池だった地方の反乱。

反貧困、反構造改革の大衆運動の昂揚 「年越し派遣村」「村長」が、「反貧困大集会」や「集会実行委員長」ならマスコミは来なかつただろう。「年越し派遣村」は3つの特徴を持っていた。ア)個人のイニシアティブを重視し、イ)労働組合と反貧困NGOが共同し、ウ)政治に働きかけ、政治の貧困を明らかにした。

・改憲、軍事大国化に反対する運動が自公政権を追い詰めた。

安倍政権の改憲策動には2つの前提があった。1.改憲について国民世論の多数が賛成（04年4月、読売世論調査 改憲賛成65%、反対22.7%） 2.民主党が改憲に同調（03年創憲）。しかし、改憲策動に対する反対運動の昂揚が2つの前提を崩した。「九条の会」が世論を変え、民主党が改憲姿勢を後退させたのである。（08年4月、読売世論調査 改憲賛成42.5%、反対43.1%）

・民主党の政策転換が、構造改革、改憲に怒った自公離れの票を独り占めにした。

もともと民主党は保守第2政党として、98年参院選での自民党大敗北をきっかけに、保守支配層によって育成され、構造改革と軍事大国化を自民党と競い合う政党として成長してきた。ところが07年参院選で、小沢体制下突然政策の転換が行われた。小沢マニフェスト「生活が第一」。農家個別所得保障、子ども手当月額2万6千円、公立高校授業料無償化等。軍事大国問題でも「後退」のきざし、改憲問題で曖昧化。その背景に、ア)急激な構造改革の破綻 イ)小沢独裁 ウ)純粹保守二大政党制の未確立がある。共産党、社民党の存在が民主党のマニフェストを変えたのである。危機感を持った財界、アメリカの圧力で安保では動揺したが、構造改革では態度を変えなかつた。

・民主党を勝たせたもう一つの力

大都市部中間層が、自民党の利益誘導型政治をやめ、構造改革政治の継続を望む。自民党麻生政権への不信、民主党小沢代表辞任で、民主党への改革期待さらに強まる。

財界、マスコミが民主党批判から「善導」「陶冶」路線へ方針転換。

民主党政権のジグザグ、動揺はなぜ起こる、民主党政権で政治はどこへ行く。

・民主党政権への2つの相反する期待

ア)構造改革への怒りの爆発と転換への期待、改憲やめて平和を。

イ)構造改革の安定した運営を可能にする政治体制づくりの完成、改めて改憲を。